

普及・教育・研究活動報告（2018年度）

1. 2018（平成30）年度の普及活動

1) 展示・情報公開

a. 埋蔵文化財調査部門サテライト館の公開

埋蔵文化財調査部門では、総合博物館サテライト館のひとつとして展示室を整備し、構内遺跡で出土した資料を中心に展示公開を行っている（開館日：月曜日～金曜日祝日および12月28日～1月4日を除く 開館時間：10時～17時）。2018年度の来館者は494名（前年比0.63）であった（2007年5月のリニューアルオープンからの延べ来館者6,758名）。1年を通してみると、4月と5月にそれぞれ教養ゼミで広大生12名と98名の計110名、8月はオープンキャンパスで49名、10月は博物館実習で37名、2019年2月と3月に実施したワークショップで計53名の多数の来館者があり、団体見学としては、三次風土記の丘ボランティアガイド（5月23日：11名）、郷田小学校（11月30日：69名）、福富中学校（12月13日：33名）などの受け入れを行った。

b. 第13回企画展・平成30年度東広島市出土文化財企画展「大学と埋蔵文化財～キャンパスの遺跡・発見された文化財の魅力～」（実施期間：第1期2018年11月7日～12日、第2期11月16日～12月15日）

今年度の博物館の企画展は、東広島市教育委員会との共催により埋蔵文化財にかかわる内容で実施した。大学が取り組む埋蔵文化財の調査や保護活用、研究について広く理解してもらうため、パネル30枚による解説と、広島大学の出土埋蔵文化財約250点と7大学の貴重な資料約200点を展示するなど、全国14大学と学内2機関、平山郁夫美術館の協力のもと、第1期は東広島芸術文化ホールくらの市民ホールで、また第2期は東広島市出土文化財管理センターの展示室で開催した。第1期は734名、第2期は342名の計1,076名の来館者があった。企画展のパンフレットとして、広島大学の遺跡の特徴やこれまでの文化財調査への取り組みについて紹介した「広島大学の埋蔵文化財」を作成し、来館者に配布した。また、協力を得た14大学のリーフレット類も自由に持ち帰ってもらえるよう用意した。実施した関連イベントや協力機関については以下に記した。

【公開講演会】

講演会①

題目：「地域に貢献する大学博物館－テュービンゲン大学博物館（MUT）の事例－」

講師：トーマス・クノフ（テュービンゲン大学特任教授）

日時：2018年11月12日（月）18：00～19：30

会場：ライブラリホール（広島大学中央図書館内）

参加者：48名

講演会②

題目1：「西条盆地の遺跡と広島大学の移転」

講師：妹尾周三（東広島市教育委員会出土文化財管理センター所長）

題目2：「広島大学の埋蔵文化財とその特色」

講師：藤野次史（広島大学総合博物館教授）

日時：2018年12月2日（日）13：00～15：30

会場：東広島市市民文化センター研修室1・2

参加者：25名

【ワークショップ】

土器づくり

日時：2018年11月10日（土）13：30～16：30

会場：東広島芸術文化ホールくらら工作室

ナビゲーター：石丸恵利子、石垣敏之・津田真琴（東広島市出土文化財管理センター）

参加者：23名

【フィールドナビ】

東広島キャンパス遺跡巡り

日時：2018年11月18日（日）10：00～15：00

Aコース：総合博物館→鴻の巣南遺跡→山中池南遺跡第2地点→解散（午前中のみ）

Bコース：総合博物館→鴻の巣南遺跡→山中池南遺跡第2地点→昼食→鏡西谷遺跡
→陣が平西遺跡→解散

ナビゲーター：藤野次史、中山学（東広島市出土文化財管理センター）

参加者：19名

【協力機関】

北海道大学埋蔵文化財調査センター、東北大学埋蔵文化財調査室、東京大学埋蔵文化財調査室、金沢大学埋蔵文化財調査センター、京都大学文化財総合研究センター、大阪大学埋蔵文化財調査室、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、島根大学総合博物館、山口大学埋蔵文化財資料館、徳島大学埋蔵文化財調査室、愛媛大学埋蔵文化財調査室、九州大学埋蔵文化財調査室、熊本大学埋蔵文化財調査センター、鹿児島大学埋蔵文化財調査センター、広島大学文学研究科考古学研究室、広島大学敦煌学プロジェクト研究センター、平山郁夫美術館

【展示資料借用機関】

京都大学文化財総合研究センター、大阪大学埋蔵文化財調査室、岡山大学埋蔵文化財調査研究センター、島根大学総合博物館、山口大学埋蔵文化財資料館、徳島大学埋蔵文化財調査室、愛媛大学埋蔵文化財調査室

【協力者（個人）】

荒見泰史、竹広文明、野島 永、ウェルナー・シュタインハウス、トーマス・クノフ、フンク・カロリン



写真 86 第 13 回企画展のチラシ



写真 87 第 1 期（くらら）の展示の様子 1



写真 88 第 1 期（くらら）の展示の様子 2



写真 89 第 2 期（出土文化財管理センター）の展示の様子 1



写真 90 講演会①の様子



写真 91 講演会②の様子



写真 92 土器づくりワークショップの様子



写真 93 遺跡巡りの様子



中国新聞2018年11月8日

広島大キャンパス内で出土文化財350点を展示

広島大学総合博物館と東広島市教委が共催する企画展「大学と埋蔵文化財」が12月2日から15日まで、入場無料で開催される。展示は、同キャンパス内の東広島市教委が所蔵する約350点の出土文化財を展示する。企画展は、同キャンパス内の東広島市教委が所蔵する約350点の出土文化財を展示する。企画展は、同キャンパス内の東広島市教委が所蔵する約350点の出土文化財を展示する。

写真 94 企画展の中国新聞掲載記事

THE WEEKLY PRESSNET
2018年11月22日号



来場者に展示資料の説明をする石丸研究員(左)

12月2日には市民文化センターで講演会も開かれ、問い合わせは同博物館埋蔵文化財調査部門082(4)246198。(栄木)

国立大学で出土した資料なども合わせ約350点を展示。調査成果や保存・活用を取り組みなどをパネルで紹介している。広島大学は、東広島市への大学移転に伴い1980年頃からキャンパス内の発掘調査を開始。現在までに、旧石器時代・江戸・明治時代までの約30遺跡を確認している。同博物館埋蔵文化財調査部門の石丸恵利子研究員は「レプリカでない実物を一度に見ていただきたい機会。埋蔵文化財の保存・活用に関する教育研究機関の意義や役割にも理解を深めてもらいたい」と話していた。

写真 95 企画展のプレスネット掲載記事



写真 96 企画展のパンフレット(表紙)

c. 刊行物

『広島大学埋蔵文化財調査研究紀要』第10号(2019年3月刊行)

埋蔵文化財調査部門の研究および調査の成果と普及活動の年度報告を発信するもので、調査編には「開発に伴う協議と立会・試掘調査の概要(2016年度)」、普及・教育・研究活動報告編には「普及・教育・研究活動報告(2016年度)」、付編には「総合博物館埋蔵文化財調査部門の組織(2016年度)」が収められている。



写真 97 紀要第 10 号の表紙

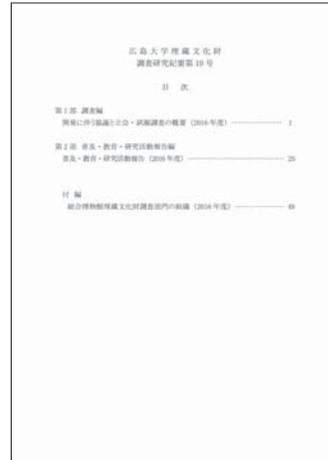


写真 98 紀要第 10 号の目次

『HUM-HUM』 Vol.11 への寄稿 (2018 年 6 月発行)

広島大学総合博物館のニューズレターに、埋蔵文化財調査部門の 2017 年度の活動の一部を紹介した。埋文の発掘この 1 年の欄には、「2017 年度の広島大学構内における埋蔵文化財の調査と整備」として、2017 年度の立会調査の成果や遺跡の整備活用について概要を報告した。また、イベントピックアップ欄に、「考古学ワークショップ：夏の青空 考古学・楽 体験広場」と「文化財保護に関する講演会：文化財はみんなのもの」について、2 件の報告を行った。さらに、「近世城下町の動物考古学」として、石丸による動物遺存体研究の一端を紹介した。

e. Facebook・ホームページ更新

調査部門での業務報告やイベント紹介などの情報を敏速に発信するため、2014 年 7 月より Facebook の運用を開始しており、2018 年度も継続してイベント等の情報を発信した。ホームページも引き続き運用している。

2) 調査資料および遺跡の整備・管理

a. 東広島地区：鏡西谷遺跡芝張り整備

実施面積：約 52 m²

実施期間：2018 年 4 月 19 日～5 月 31 日、6 月 8・12・14・19 日

担当者：石丸恵利子

委託業者：東広島市シルバー人材センター

実施内容：昨年度に続き、ティフブレアの植え付けをピット苗移植で実施した。4月中に学生アルバイトによって培養土を敷き詰めたピットトレーに種子を蒔き、6月にシルバー人材センターに依頼して移植を行った。(3日間×5名、延べ86.5時間)



写真 99 種子撒きの様子



写真 100 植え付け場所の草刈りの様子



写真 101 植え付け作業の様子



写真 102 植え付け完了の様子

b. 東広島地区：保存区の草刈り整備

毎年、東広島地区の遺跡保存区では、東広島市シルバー人材センターに依頼して草刈りを実施している。鏡西谷遺跡、西ガガラ遺跡第1地点、山中池南遺跡第2地点の草刈りを、以下の日程で実施した。

鏡西谷遺跡 2018年5月21日 (5名：延べ25時間)

鏡西谷遺跡 2018年11月12・13日 (5名：延べ70時間)

山中池南遺跡第2地点 2018年11月14・15日 (5名：延べ40時間)

西ガガラ遺跡第1地点 2019年3月15日 (5名：延べ35時間)

c. 三原地区：基準杭の設置

実施期間：2018年6月6日、8月6日

担当者：石丸恵利子

委託業者：キュートク

実施内容：三原地区において基準杭の設定を行った。6月に下見を行い、設置場所を確認し、8月の附属学校の夏休み期間に杭の設置を行った。三原地区全域をカバーできるように、敷地内に9点の基準杭を設定した。



写真 103 杭設置の様子 1



写真 104 杭設置の様子 2

3) 遺跡・遺物の整理・貸出利用等

a. 遺物の整理

本年度の遺物整理として、以下の作業を行った。

- ① 2018年度立会調査関係図面の整理
- ② 2017年度立会・試掘出土資料の洗浄、ナンバリング、接合、データ入力、収蔵等
- ③ 霞地区出土貝類の分析・整理
- ④ 山中池南遺跡第2地点ほかのカラー・スライド整理、鴻の巣南遺跡プリント(2L版)写真の整理
- ⑤ 山中池南遺跡第2地点1号住居跡および須恵器焼成窯跡灰原採取土資料からの鍛造剥片等の鍛冶関連微細遺物の抽出作業

b. 資料の貸し出し・利用

今年度は以下の利用があった。

- ① 西ガガラ遺跡第1地点・第2地点出土旧石器時代遺物の見学、見学者：中村由克（明治大学）、見学日：2018年7月20日、2019年2月19～22日
- ② 霞地区・東千田地区等広島市内キャンパス検出近代遺構（調査写真）の見学・貸出、見学者：順田千織（広島県埋蔵文化財調査室）、見学日：2019年1月18日
- ③ 東千田地区駐輪場取設その他工事地点出土煉瓦等の見学、見学者：井畝良太（慶応義塾大学院生）、見学日：2019年2月18・19日
- ④ 平木池遺跡出土石鏃の展示（貸出）借用者：広島県立歴史博物館、期間：2018年4月1日～2019年3月31日

4) 遺跡と遺物の利活用・社会貢献・普及教育活動

a. シンポジウム「発見！掘って分かった城下町の暮らし」（開催日：2018年5月19日）

近年の城跡や城下町遺跡の発掘調査および科研費により実施した研究で明らかとなった近世城下町の暮らしや文化について、その成果を発信し、広く一般に紹介するシンポジウムを5-Days こども文化科学館（共済）において実施した。講演者およびプログラムは以下の通りである。参加者は75名であった。

講演者

若島一則（公益財団法人広島市文化財団 文化科学部文化財課）「広島城跡発掘調査にみる台所事情」

小山泰生（公益財団法人松江スポーツ・文化振興財団埋蔵文化財）「松江城下町遺跡 - 地面の下の近世遺跡 - 」

竹内裕貴（香川県埋蔵文化財センター）「発掘調査からわかった高松・丸亀城下町」

石丸恵利子（広島大学総合博物館）「近世城下町の食文化と動物との関わり」

司会・コーディネーター：石垣敏之（東広島市教育委員会出土文化財管理センター）

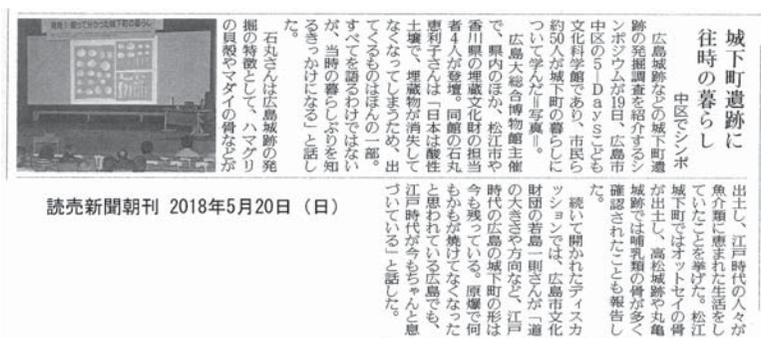


写真 105 シンポジウム読売新聞掲載記事



写真106 シンポジウムのチラシ



写真107 シンポジウム中国新聞掲載記事



写真108 討論の様子

b. 第66回フィールドナビ「キャンパスの遺跡と自然探検隊」(実施日:2018年5月26日)

東広島キャンパスの遺跡や地域の文化財への理解を深め、同時にキャンパスの自然に触れるフィールドナビを開催した。今回は、歴史学を専攻する学生がナビゲーターとなって参加者への遺跡の紹介を行い、遺跡と遺跡をつなぐ自然遊歩道では、技術センター職員の協力によってキャンパスの自然観察を楽しんだ。参加者は学生スタッフらを含め20名であった。

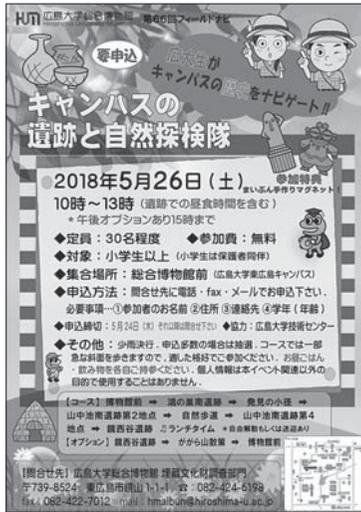


写真 109 第 66 回フィールドナビのチラシ

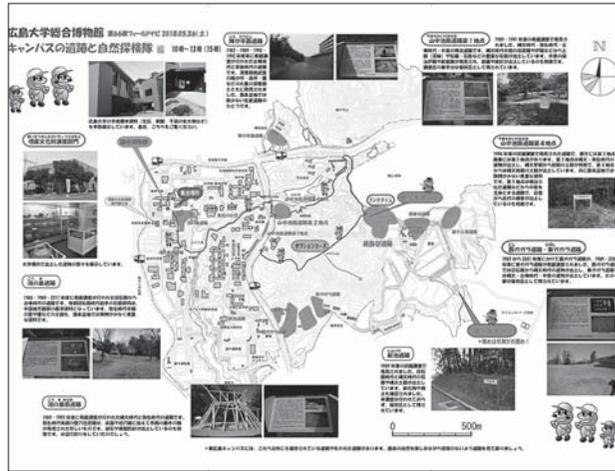


写真 110 フィールドナビ遺跡マップ



写真 111 学生による遺跡解説の様子 1



写真 112 学生による遺跡解説の様子 2



写真 113 学生による遺跡解説の様子 3



写真 114 自然観察の様子

c. 考古学ワークショップ（埋蔵文化財学講座）

ものづくりを通して、私たちの暮らしにかかわる歴史や文化について学ぶワークショップを開催した。これまでに勾玉づくりや鹿角製品づくり、土器づくりなどを行ってきたが、今回は、作成した土器を焼成する過程も参加者が体験できるものとした。土器づくり（実施日：2019年2月22日～24日）

使用する粘土を1kgと3kgの2つのコースを設定した。参加者は土器や埴輪など思い思いの作品に挑戦し、数日かけて作成する熱心な参加者もいた。3日間で計34名が参加した。土器づくりの様子は、THE WEEKLY PRESSNET（2019年3月14日号）で紹介されるとともに、東広島ケーブルメディア Kamon たいむ（2019年2月27日～3月5日）でも放映された。

土器焼き（実施日：2019年3月23日・24日）

約1か月乾燥させた作品を、覆い焼きによって焼成した。参加者と一緒に、並べた薪と炭の上に作品を並べて藁で覆い、周りを粘性のある土を練って貼り付けて窯を3基製作した。約20～24時間焼成した後、窯を壊して作品を取り出した。2日間で計12名が参加した。



写真 115 土器づくりの様子



写真 116 土器づくり参加者の作品



写真 117 土器焼きの様子（焼成前）



写真 118 土器焼きの様子（窯づくり）



写真 119 土器焼きの様子（焼成中）



写真 120 焼成後土器取り出しの様子

考古学ワークショップ
埋蔵文化財調査講座

土器づくり ※土器づくりを楽しみながら土器の歴史を学びましょう！

日にち：2019年2月22（金）・23日（土）・24日（日）
時間：10時～16時 ※この間の自由な時間帯で
募集人数：各日10名 要予約 締切：2月19日（火）
参加費：コースA：400円/人（いずれも材料代と保険代を含む）
コースB：1,000円/人 ※ちょっと大きなものに挑戦したい方
場所：広島大学総合博物館 埋蔵文化財調査部門（整理室）
※作品は焼き上げて3月23日以降お渡しします。希望者は、3月23日の土器焼きワークショップで頂くこともできます（数に限りあり）。

土器焼き ※土器焼きの窯をつくりながら土器の歴史を学びましょう！

日にち：2019年3月23日（土）
時間：9時～12時
募集人数：20名程度 要予約
締切：3月19日（火）
参加費：100円/人（保険代）
場所：広島大学総合博物館 埋蔵文化財調査部門（前庭）
薪の上に土器を並べ、ワラと土で覆って窯状にして焼きます。
※当日は火入れまで。翌日、窯から土器を取り出します（参加自由）。

【問合せ・申込み先】
広島大学総合博物館 埋蔵文化財調査部門
☎082-424-6198 メール hmbun@hiroshima-u.ac.jp

写真 121 考古学ワークショップのチラシ

2019年(平成31年)3月14日号
THE WEEKLY PRESSNET

土器作りに挑戦
親子連れなど34人参加

広島大総合博物館

土を積み上げるなどしてそれぞれのイメージを形にして、3月23日の土器焼きの講習会で焼き上げる。

参加した広島大教育学部造形芸術系コース2年生の竹林英美さん(20)は作った作品を器用に作っていたので「すね」と感じしていた。

石丸研究員は「土器作りが昔のことを知り、興味を持つきっかけになった」と話していた。

（石田）

思い思いの作品を作る参加者

ていき、最後に貝殻や棒などで模様を付け仕上げた。完成した作品は乾燥させ、3月23日の土器焼きの講習会で焼き上げる。

参加した広島大教育学部造形芸術系コース2年生の竹林英美さん(20)は作った作品を器用に作っていたので「すね」と感じしていた。

石丸研究員は「土器作りが昔のことを知り、興味を持つきっかけになった」と話していた。

（石田）

写真 122 プレスネット掲載記事

2. 2018（平成 30）年度の教育活動

1) 学芸員資格取得特定プログラム

藤野次史 博物館概論 A
博物館概論 B
博物館経営論
博物館資料論 A（自然系）（1.5 回分を担当）
博物館資料論 B（人文系）（1.5 回分を担当）
博物館実習 1（8 回分を担当）
博物館実習 2

2) 教養教育

藤野次史 東広島キャンパスの自然環境管理（1 回分担当）

3. 2018（平成 30）年度の個別研究活動

《藤野次史》

（著書・論文・成果報告）

藤野次史 2018 年 10 月「広島県における旧石器時代の石器石材研究の現状と課題」『芸備』第 50 集 1-14 頁

（研究発表・講座）

藤野次史 2018 年 6 月 2 日「2017 年度広島県における発掘調査と埋蔵文化財調査に関する課題について」岡山市日本考古学協会埋文委中国連絡会、場所：岡山理科大学

藤野次史・青木孝夫・清水則雄・菅村亨・本多博之・山口富美夫・山崎博史・吉田将之 2018 年 6 月 22 日「広島大学における新課程実施後の学芸員資格取得状況について」第 13 回博物科学会、場所：香川大学幸町キャンパス

石丸恵利子・塩路恒生・梅本健治・藤野次史 2018 年 6 月 22 日「大学博物館を活用した学生主動によるフィールドナビと考古学ワークショップ」、第 13 回博物科学会、場所：香川大学幸町キャンパス

藤野次史・中村由克・稲村秀介・沖憲明 2018 年 10 月 27 日・28 日「広島県西条盆地周辺における高田流紋岩類の石材調査」第 35 回中・四国旧石器文化談話会、

場所：松山市民会館

(外部資金・共同研究)

科学研究費 基盤研究 (C) 課題番号：18K01066 「旧石器時代における石材獲得戦略
の研究―地域石材からの視点を中心として―」 研究代表者

(その他：依頼・協力・資料調査など)

西条盆地周辺石器石材分布調査、竹原市仁賀

2018年5月3日：沖憲明（広島県教育委員会）・稲村秀介（庄原市教育委員会）同行

2018年6月9日：藤野

2018年9月19日：中村由克（明治大学）・稲村・岩佐佳哉（広島大学大学院生）同行

(公財) 広島県埋蔵文化財調査室調査指導委員

2018年6月5日：広島県坂町上ノ城跡調査指導、広島県埋蔵文化財調査室調査現場

2019年2月18日：福山市鞆の浦雁木調査現地指導、広島県埋蔵文化財調査室発掘
調査現場

2018年8月29日：広島市野原山城跡調査現地指導、広島県埋蔵文化財室調査発掘
現場

東京都下原・富士見町遺跡旧石器時代石器群の調査、東京都明治大学博物館、2018
年6月25日

(公財) 広島市文化財団調査指導委員

2018年9月3日：広島市緑井城跡調査現地指導、広島市文化財団発掘調査現場

西条盆地周辺石器石材分布調査、東広島市安芸津町三津

2018年12月22日：藤野・稲村

2019年1月18日：藤野・稲村

2019年2月20日：藤野・中村・稲村・岩佐

2019年3月13日：藤野・稲村

広島県文化財保護審議会委員

2018年7月31日：広島県文化財審議会史跡部会現地調査、福山市松本古墳、猪ノ
子古墳

2018年8月1日：広島県文化財審議会史跡部会現地調査、竹原市唐崎常陸之介之墓

2018年8月21日：広島県文化財審議会史跡部会現地調査、安芸高田市郡山城跡

2018年11月29日：広島県文化財審議会史跡部会現地調査、福山市猪ノ子古墳

2019年2月28日：広島県文化財保護審議会現地調査、福山市鞆の浦・猪ノ子古墳

2019年3月8日：広島県文化財保護審議会現地調査、福山市松本古墳

西条盆地周辺石器石材（水晶）分布調査、東広島市豊栄町安宿、2019年2月25日

*清水則雄ほか学生2名同行

岩国市文化財審議会委員

中津居館跡調査現地指導、岩国市教育委員会発掘調査現場、2018年12月14日、

2019年3月8日

庄原市博物館・資料館運営協議会委員

広島歴史ネットワーク幹事

《石丸恵利子》

（著書・論文・成果報告）

石丸恵利子 2018年10月「動物考古学からみた農耕化現象と集落立地の反映」『初期農耕活動と近畿の弥生社会』森岡秀人／古代学協会編 株式会社雄山閣 133-145頁（分担執筆）

石丸恵利子 2018年11月「動物資源利用を読み解く同位体考古学的研究 - 近世城下町遺跡における考察 - 」月刊考古学ジャーナル 12月号 No.720 ニューサイエンス社 30-33頁

石丸恵利子 2019年3月「吉田遺跡(公共下水道布設に伴う発掘調査)出土の動物遺存体」『山口大学埋蔵文化財資料館年報 - 平成26年度 - 』山口大学埋蔵文化財資料館 194-200頁

石丸恵利子 2019年3月「京田遺跡4区の動物遺存体と縄文時代後晩期の動物資源利用」『京田遺跡4区』出雲市市民文化部文化財課 115 - 130頁

石丸恵利子 2019年3月「宮ノ浦遺跡第8次発掘調査における出土動物遺存体」『宮ノ浦遺跡IV第8次発掘調査報告』愛媛大学法文学部考古学研究室・愛媛県越智郡上島町教育委員会 79-104頁

（研究発表・講座）

石丸恵利子 2018年5月19日「近世城下町の食文化と動物との関わり」シンポジウム 発見！ 掘って分かった城下町の暮らし 主催：広島大学総合博物館・

JSPS 科研費（課題番号：26350376）基盤研究C「近世城下町の文化・流通に関する動物考古学および同位体考古学的研究」（研究代表者：石丸） 共催：公益財団法人広島市文化財団 広島市こども文化科学館・文化科学部文化財課
場所：広島市 5Days こども文化科学館 口頭発表

石丸恵利子・塩路恒生・梅本健治・藤野次史 2018年6月22日 「大学博物館を活用した学生主動によるフィールドナビと考古学ワークショップ」 第13回博物科学会 会場：香川大学幸町キャンパス 口頭発表

石丸恵利子 2018年11月23日 「縄文時代の動物資源利用 - 渥美半島周辺域での同位体分析による検討 -」 国立歴史民俗資料館共同研究・科研研究会 会場：東京大学（文京区） 口頭発表

石丸恵利子・日下宗一郎（ふじのくに地球環境史ミュージアム）・申 基澈（総合地球環境学研究所） 2018年12月21日 「ストロンチウム同位体比を用いた縄文時代の狩猟域の推定 - 東海地域における検討 -」 第8回同位体環境学シンポジウム 会場：総合地球環境学研究所（京都市） ポスター発表

石丸恵利子 2019年1月25日 「古代人の食事と資源利用 - 縄文・弥生時代を中心として -」 中央生涯学習センター活動事業「連続講座 遺跡で語る私たちの歴史」第7回 場所：東広島芸術文化ホールくらら 口頭発表

（外部資金・共同研究）

科学研究費 挑戦的研究（萌芽） 課題番号 18K18527 「土器胎土の Sr-Nd-Pb 同位体分析による古代土器製作圏と流通圏の解明」 研究代表者

科学研究費 基盤研究（C） 課題番号 26350376 「近世城下町の資源利用と文化・流通に関する動物考古学および同位体考古学的研究」 研究代表者

科学研究費 基盤研究（A） 課題番号 18H03593 「考古学・人類学・文化財科学の学際的研究における縄文社会論の再構築」 研究分担者（研究代表者：山田康弘）

科学研究費 基盤研究（C） 課題番号 16K02042 「発掘人骨の古病理学的ストレスマーカーに見える性別役割」 研究分担者（研究代表者：岡本（藤澤）珠織）

平成30年度総合地球環境学研究所「同位体環境学」部門共同研究「遺跡出土動物遺存体の産地判別と狩猟採集域の解明および環境データの構築」 研究代表者

平成30年度人間文化研究機構国立歴史民俗博物館 共同研究「人骨出土例による縄文社会論の考古学・人類学・年代学的再検討」 共同研究員（研究代表者：山田康弘）

(その他：依頼・協力・資料調査など)

- 市子林・堀端・千石屋遺跡出土人骨の調査および資料サンプリング 青森県埋蔵文化財調査センター 2018年6月18日～20日 *藤澤珠織(青森中央学院大学)・大藪由美子(土井ヶ浜遺跡・人類学ミュージアム)に同行
- 企画展「文化財を科学する」における動物考古学・同位体分析の展示パネル作成協力 5-Days こども文化科学館 2018年7月21日～9月2日
- 香川県弥生土器の調査(第1回土器同位体研究会) 香川県埋蔵文化財センター 2018年8月5日
- 愛媛大学宮ノ浦遺跡第8次発掘調査現地調査 愛媛県上島町宮ノ浦遺跡発掘調査現場 2018年8月18日
- 塩田遺跡出土資料(動物遺存体)の分析依頼 愛媛県上島町教育委員会 2018年9月1日
- 野坂貝塚出土資料(動物遺存体)の分析依頼 愛媛県伊方町町見郷土館 2018年9月6日・7日、12月7日～9日
- 文京遺跡出土資料(動物遺存体)の分析依頼 2018年9月18日
- 大阪府弥生土器(亀井遺跡)の調査(第2回土器同位体研究会) 大阪府文化財センター中部調査事務所 2018年10月11日・12月10日 *富井眞(京都大学)・申基澈(総合地球環境学研究所)・信里芳紀(香川県立ミュージアム)同行
- 四日市遺跡土壌の分析依頼 東広島市出土文化財管理センター 2018年11月15日
- 名勝平和記念公園内遺跡出土資料(動物遺存体)の分析依頼 公益財団法人広島市文化財団 2018年11月29日～2019年3月20日
- 京都大学文化財総合研究センター出土縄文土器(聖護院河原町遺跡)の調査 京都大学文化財総合研究センター 2018年12月11日
- 広島県弥生土器の調査(第3回土器同位体研究会) 広島大学総合博物館埋蔵文化財調査部門 2018年12月13日 *富井眞(京都大学)・伊藤実(広島県埋蔵文化財調査室)同行
- 亀居城跡出土資料(動物遺存体)の分析依頼 公益財団法人広島県教育事業団 2018年12月19日
- リビングひろしま特別号「はじまり4号」 フグの七不思議の回答の依頼 広島リビング新聞社 2018年12月31日号
- 四国地区埋蔵文化財センター発掘へんろ展の展示協力 愛媛県埋蔵文化財センター

2019年1月11日

本町二丁目遺跡出土資料（動物遺存体）の分析依頼 香川県埋蔵文化財センター

2019年2月18日

愛知県田原市博物館保美貝塚出土動物遺存体資料の調査 田原市博物館 2019年3

月28日・29日

日本動物考古学会 『動物考古学』編集委員 2018年度